2024年5月3日北摂の古墳巡りで観察した植物

作；岡田弘

＊トキワツユグサ（常盤露草）別名・ノハカタカラクサ（野博多唐草）ツユグサ科ムラサキツユグサ属・花期＝6～8月

＊名前の由来＝常緑でツユグサに似ているから。別名は葉裏の模様が博多織にたとえ。唐は外国から来たという意味合い。湿った場所を好み茎の節から根を出し群生している。南米原産の帰化植物、観賞用が逸出して野生化、常緑の多年草でほぼ無毛、葉は無柄で尖った卵形、全縁で波打つ、葉裏が赤紫色、茎の上部に数個の花をつける、花弁は同型の3枚同型**＊花言葉＝尊敬**・　似たのにオオトキワツユグサ、花が大きい、葉裏が緑、・ミドリハカタカラクサ、葉の裏緑色、結実しない。

コメツブウマゴヤシ（米粒馬肥）マメ科ウマゴヤシ属＊花期＝5～7月

＊名前の由来＝全草が馬や牛の飼料となり、種子が米粒の様に小さいから、
同じウマゴヤシの仲間には、ウマゴヤシ・コウマゴヤシ・クスダマウマゴヤシがあり、３出複葉、托葉で見分けるとよい。ウマゴヤシは櫛状になっており、コウマゴヤシはトゲがある、ヨーロッパ原産、１～２年草江戸時代に渡来して日本全国に帰化分布、茎は基部から分枝して這うようにして斜上、茎の断面は四角、葉の先半分に鋸歯、花は黄色、20～30個の蝶形花を円形につける。今回も道路わき等いたるところに群生**＊花言葉**＝お米を食べよう・小さな恋人

ハハコグサ（母子草）キク科ハハコグサ属＊花期＝4～6月

＊名前の由来＝全体が白く柔らかい毛で覆われておる、昔はこれを「ほうけ立つ」とと言い、これが転じて「ほうこぐさ」になり、更に転じて「ハハコグサ」になった、など諸説ある。
縄文時代に米や麦と一緒に朝鮮半島経由で渡来した史前帰化植物。春の七草の一つでゴギョウと呼ばれ古くから食されていた、ヨモギ餅になる前はハハコグサが使われていた。御形（ゴギョウとは、穢れを浄化する意味、故に、春の七草に使われている、薬効＝利尿作用・去痰作用・咳止め解熱作用、等。全草を干してお茶にすると良い**＊花言葉**＝いつも想う・忘れない・無償の愛。

イヌムギ（犬麦）イネ科スズメノチャヒキ属＊花期＝5～8月

＊名前の由来＝麦に似ているが食べることが出来ないのでイヌをつけた。
明治元年に牧草として渡来、全国に広がり野生化した。乾燥した草地に生え、秋に芽をだして生育、草丈40～80㎝茎の先端から補を出す、平べったい補は閉鎖花が多く花が咲かないまま種子を作る。**＊花言葉**＝繁栄・豊穣・成功

カラスムギ（烏麦）イネ科カラスムギ属＊花期＝6～7月

＊名前の由来＝「人が食べれない麦」「鳥が食べる麦」の意、人の役に立たないものに動物の名前をつけた。麦に似ているが食べることが出来ないという意味。
しかし、カラスムギが改良され栽培されて「燕麦」として食べられています、
穂が燕が飛んでいる羽根ににているので燕の麦「燕麦」となった。
カラスムギは繁殖力が強い、特徴的なのは小穂（稲穂のような部分）と呼ばれる部分が、茎から垂れ下がり、長い茎（のぎ）のある細い釣鐘のような小穂です**＊花言葉**＝音楽が好き、魅力的な音楽・恋は２人のメロデー。垂れ下がった小穂を音符に見たてての花言葉です。

ネズミムギ（鼠麦）イネ科ドクムギ属＊花期＝5～7月

＊名前の由来＝人の役に立たないのでネズミと名付けて、麦に似ているので。
地中海原産、日本には牧草として渡来したのが野生化して、全国に分布、別名を「イタリアンライグラス」という。種子は休眠能力が高く、牛糞の肥料から発芽して分布を広げていった。

アカバナトチノキ（赤花栃木）ムクロジ科トチノキ属＊花期＝5～6月

名前の由来＝トチとは、トは「十」チとは「千」を表し、果実を沢山成らす赤い花の木という意・原産地、北米、よく似た花に「ベニバナトチノキ」がある、これは、パリで有名なマロニエとアカバナトチノキとの交雑種。アカバナは鮮やかな真紅色の円錐状の花序を直立させ筒状花を咲かせる葉は掌状で小葉が数枚付く、**＊花言葉**＝輝かしい才能・英才・慈悲＜**薬効**＞樹皮は皮のなめし剤として、煮汁を下痢、痔、子宮出血の内服薬として葉や若芽から出る粘液は皮膚病。タムシ等に